



補正3号に反対!!

市民と語る会は3月議会での令和4年度一般会計予算に続き、6月議会では補正3号に反対しました。

理由は仮称大和田三丁目ウォーターパークの**建設費に7億**もかかることが分かったからです。「財政非常事態宣言」で多くの**福祉予算を削減**しておいて、その復活の前に7億のウォーターパークはないでしょう。

維持管理費に**年間1400万**もかかります。由臨会もかなり怒っていましたが、仕方なく賛成。まさか、全会一致で「賛成」なんてことになったら、大変ですので反対しました。

もう一つの反対理由は会派ではなく、僕個人の反対ですが、「新型コロナワクチン」の**4回目の接種に4億円**の補正予算がくまれましたことです。今までは、リスクが高い可能性がある、注意喚起をするだけでした。しかし**厚生労働省の正式なデータ**を見ても、リスクが余りにもあり過ぎるという結論に達したのです。

感染予防の為のワクチンの筈なのに、ワクチン接種した人がどんどん感染しています。接種後に亡くなった方が厚生省の発表だけで**1743人**もいます。取り返しがつかないような**重篤な副反応は数万人**。

今年の1月～3月の死亡者数が例年と比べると**38000人**も増えているのです。老衰で亡くなった方が激増していますが、みなさんワクチン打たれた世代ですよ。

それなのに、60歳以上の方と基礎疾患のある方に4回目接種を!!と毎日のようにテレビでコマーシャルを流しているのです。

これ、厚生労働省の発表ですから、カウントされてない方達は更に多いでしょう。

感染しても殆どリスクがない子ども達にワクチンを打つことなど考えられないのです。

流されないで、慎重にいきましょう!



2022年7月31日発行



左がたかやん塾を作った姉のヒロミ。右が兄の至。それにしてもいい笑顔だわ。



たかやんのプロフィール



本名たかむらともや
東京青山生まれ。
新宿区立西戸山中
石神井高、北海道大
庭球部卒。中高大と
勉強は殆どせず、テ
ニスばかりしていた。

1977年新設の新座五中に赴任、まさかの**3年生の担任**となる。**優しい先輩達**に恵まれ2年生の理科も担当、**鍛えに鍛えられる**。僕を3年の担任にしたのは、当時の校長で後の教育長、中村徹一郎。父親のような存在だった。母親のような存在だったのが、神宮司久子。子ども達は「神さん」と呼んで恐れていたが、僕は「ばあさん」とか「母さん」とか呼んでいた。兄のような存在の甲神岳、姉のような存在の宮下博子にも**愛され、教師として成長**していった。

でも、僕を一番成長させてくれたのは、勿論子ども達。写真は高三の娘、里咲とのツーショット。身長175cm、体重66kg
体脂肪率11.2%。血液型はB型。



👤 マスクの話

最近、意識してマスクを外すことが多くなりました。マスクをしていると口呼吸が多くなり、口の中が渇き、唾液が減るので、口の中の細菌が増えるからです。この暑さの中で同じマスクで一日を過ごす子ども達のが心配でなりません。

この6月議会でも質問しましたが、学校生活で子ども達がマスクをする時間が長すぎると思います。その上、給食後の「歯磨き禁止」の学校もあるようなので子ども達の口腔内は非情に危険な状態になっています。虫歯は勿論、歯周病になる可能性も高まっています。歯周病菌は血管から全身に入り様々な病気を引き起こすことが分かっています。

勿論、猛暑の中でマスクをすることは危険ですし、同じマスクを付け続けることは不潔です。新型コロナウイルスのリスクが小さい子ども達を早くマスクから解放したいものです。



新座ローンのやっちゃんと言っちゃんです。昔、五中・六中のテニスコートにやっちゃんが来て、耕運機で掘り起こして、平らにしてくれたことを思い出します。花が一杯、いい仲間が一杯の「日本一」のテニスクラブ。

どんなに雨が降っても、やっちゃんと長男の健ちゃんがプロの技でコート整備をしてくれて、テニスが出来ちゃうんです。感謝、感謝です！！

👤 先生が目5



五中4期生の3年1組のメンバーです。21年間の教師人生で、唯一2年生から3年生に持ち上がったクラスでした。右からババツ、道哉、峯且、僕、賢一、昭弘です。昭とババツとオタンコとは三中と乱闘寸前までいったときに『そんなに喧嘩がやりたきゃ、俺が相手になってやる！』と、1組の教室で三人相手に闘って・・・最後は担任の負け。

峯且には、休み時間、3人がかりでスピニングトーホールドをやられて、ギブアップしているのに更に回されて股関節を脱臼。道哉は図書室で朝、英語をやっている時に、騒いだからとぶっ飛ばしたら道哉の眼鏡が3階の図書室の窓から外に飛んで落ちて冷や汗。

賢一と昭とババツには「大貧民」で負けて思いきりぶん殴られて顔が腫れて・・・この子達、受験前、我が家に何か月も居候をしていた子達なのです。この全員と一緒に風呂に入って彼らは僕のパンツを履いていました。

そんな滅茶苦茶な関係でした。当時の僕はこの子達に何を教えたのか実に怪しい。でもこの子達は僕に教師の生きがいを教えてくださいました。

そう二十代の僕を「先生」にしたのはこの子達なんです。僕に「先生の目」を持たせてくれたのはこの子達なんです。みんな本当に立派な社会人になって、それを証明してくれました。この子達にも感謝、感謝です。

